

平成25年度 妙高市生活科・（総合的学習）部 活動報告

部長 春日 良樹

1 研究主題 地域に根差した生活科・総合的な学習の時間の充実

- 学校（学級）カリキュラムの生成→教科・領域間の関連の強化、合科的指導の推進
- 総合、生活科の授業の充実→子供相互の学び合いや表現活動等の充実
- 5年米こめサミットの一層の充実→学習の質を高める（各校総合的学習のモデル）

<妙高市教研では、「生活科・総合的学習部」として小・中学校合同で活動している>

2 研究の概要

- 総会、教科・領域部会 年度の事業計画・学校支援システムの活用 4月11日(木)
- 米こめサミット説明会 市教委・教育長講話 7月10日(水)
- 夏の一斉研修 教科研究員解説、部長講話 8月22日(木)
- 秋の一斉研修 生活科授業公開・上教大木村教授講演 11月7日(木)
- 第5回妙高っ子「米こめサミット」開催、ポスター作成・配布 11月20日(水)

3 研究の実際

○ 学校支援システムの活用

市内の全小・中学校、特別支援学校の年間カリキュラムを学年別に閲覧できるように、「生活科・総合的学習フォルダ」を設定した。また、各校の生活や総合、生活単元の指導案、実践報告等を掲載し、学校間の合同授業や自校のカリキュラム構想に活用できるようにした。

○ 授業（活動）の充実

・1年「山羊さん大好き」新井北学校小松崎恵美子教諭の授業。テーマは、「関わり合い・高め合う子供」の育成。山羊の「みらいちゃんをどうするか」という課題に対し、K男の「児童玄関で飼えばいい」という発言を皮切りに、教室中が沸き返ったり静まり返ったり緩急を繰り返しながら話し合いは35分以上にわたって続く。個々の子供の発言が、発言回数の増加とともに関係付き、自分中心の発想から家畜としての山羊の生態に即した意見に変容していくのが分かった。子供の発言やつぶやきの総数は、200回に迫る（児童数33人）。1年生においても、話し合いによる追究が十分可能であることを実証した素晴らしい授業であった。

このような子供の姿が表出した背景は、山羊の飼育（生活科）を学級経営の中核に据えたカリキュラムを編成し、各教科・領域との合科・関連を図りながら日々生成してきたことにある。本学級では、他教科の学習においても、教師の先回りを極力排し、子供同士の聞き合い・話し合い・学び合いで学習が進められている。また、学級経営に「書く活動」を位置付け、学校行事・生活科・日常生活等において、書くことを習慣化し、子供の思考力や表出力を鍛えながら、学習の履歴を蓄積してきた。

・上越教育大学木村吉彦教授より、保育園・幼稚園から小学校への緩やかな接続（小1プロブレム解消）や、保幼・小・中12年間を見通した生活、総合的学習の重要性について講演いただいた。その時期の発達特性を存分に引き出し伸ばすことが、子供を育てることになることを学んだ。また、スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの実践は、木村研究室の学校支援プロジェクトを得ながら、新井南小学校とひまわり保育園で先導的に進められているが、具体的な事例を元に編成の仕方について学ぶ機会となった。

4 課題

生活科を核にした学級経営や生活科の授業づくりに焦点を当てたが、次年度も、授業をもとにした研修を推進していきたい。子供は、授業を通して内から育つからである。

また、保育園・幼稚園に応援を仰ぎながら、1学年のスタートカリキュラムを市内全小学校で作成し、小1プロブレムの克服に寄与していきたい。